

研究結果報告書

東京裁判が日本国民の平和認識に与えた影響

所 属：高麗大学校 グローバル日本研究院
役 職：教授
氏 名：康 慶子

本研究は東京裁判被告人の陳述と弁護人の主張、東京裁判に関する当時のマスコミの姿、及び戦後行われた世論調査に基づき、東京裁判が及ぼした社会的反響とその認識的効果について実証的な考察を試みたものである。

東京裁判記録に表れた東京裁判被告人の陳述と弁護団の主張は被告人自身の無実と、天皇ならびに日本の戦争責任を否認するものであった。また、東京裁判をめぐる当時のマスコミは天皇を含む政治指導者と日本国民の戦争責任を免責する一方、東京裁判を「勝者の裁き」という名で批判しながら連合国によって断罪されるという面だけを浮彫りさせた。このような世論の中で、日本国民は自分自身を軍閥によって犠牲となった被害者として認識する一方、「勝者の裁き」という東京裁判に対する否定的なイメージは、敗戦の被害者としての認識を抱かせた。

東京裁判を通じて日本国民は侵略戦争に対する加害者としての自覚に至らず、敗戦被害者意識だけを抱え、平和に対するパラダイムの覚醒に至らなかった。世論調査を通して窺えるように、日本国民の意識には、帝国主義日本が犯した侵略戦争に対する懺悔やアジア諸国への反省は見出し得ない。むしろ東京裁判を通して形成された敗戦被害者意識は、戦後の日本社会の平和意識に深刻な亀裂をもたらし、右傾化に進む要素として作用している。日本国民が過去日本が行った侵略戦争の犯罪を直視し確固たる平和意識を確立するためにも、東京裁判に関する研究と批判的議論が国内外で活発に行われなければならないであろう。

研究成果の公表について

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名：東京裁判が戦後日本国民の平和意識に与えた影響
発表者：康慶子
会議名：韓国日本文化學會 第53回 國際學術大會
場所：韓南大學校
日時：2017年10月21日 (土)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

題名：東京裁判が戦後日本国民の平和意識に与えた影響
論文掲載誌：日本文化學報 第76
掲載時期：2018年2月

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)